

ローカルファンド研究会IN西条 立上げの意義と今後の進め方

西条市地域創生センター

(2018. 05. 17)

(一社)場所文化フォーラム名誉理事

(一社)低炭素社会創出促進協会代表理事

プラスソーシャルインベストメント(株)取締役

吉澤保幸

自己紹介

1955年新潟県上越市生れ。1978年東大法卒、その後日本銀行での20年の勤務を経て、2001年2月～ぴあ(株)役員、現在取締役CCO。

(一社)場所文化フォーラム名誉理事。ローカルサミット事務総長。
(一社)低炭素社会促進協会代表理事。(一社)グリーンファイナンス推進機構監事。NPO法人ものづくり生命文明機構常任幹事。
南砺市政策参与、上野村アドバイザー、南相馬市復興アドバイザー、
高山市経済観光アドバイザー、地域ブランディング協会顧問他。

場所文化フォーラム等を中心に、地域での「温かなローカルマネーフロー」の具体化を図りつつ、「ローカルサミット」の毎年開催を通じ、全国の地域活性化活動の連携によるローカルからの日本再生に注力。

また、環境省が提唱する低炭素・循環・共生の統合的アプローチや「森里川海」プロジェクト等の推進を通じる「環境・生命文明社会の創造」に向けた活動を積極的に展開中。

著書:「グローバル化の終わり、ローカルからののはじまり」(2012年、経済界)

連載:「ローカルファイナンス事始」(2017年～、デイスカバージャパン)

第1回ローカルサミットIN帯広(2008年7月)

「人類・命・地球が直面する危機は、グローバル資本主義に起因するところがあり、国民国家間の調整・協議のみでは解決できない」ことを皆で確認し、これまでの延長線上ではなく、忘れかけている地域の仕組み等に解決の糸口をみつけ、**場所文化を甦らせ、いのちの原点に立ち戻る、ものづくり生命文明の構築をめざし**、そのために、6つの分野(食・農、環境、まちづくり、経済、金融、教育)に関する志民の実践の指針を提示する形で、ローカルサミット宣言を取り纏め、発表。



エコビレッジモデル地区創出による協働 のまちづくりPJ(富山県南砺市、2012～)

＜第4回ローカルサミット宣言から＞

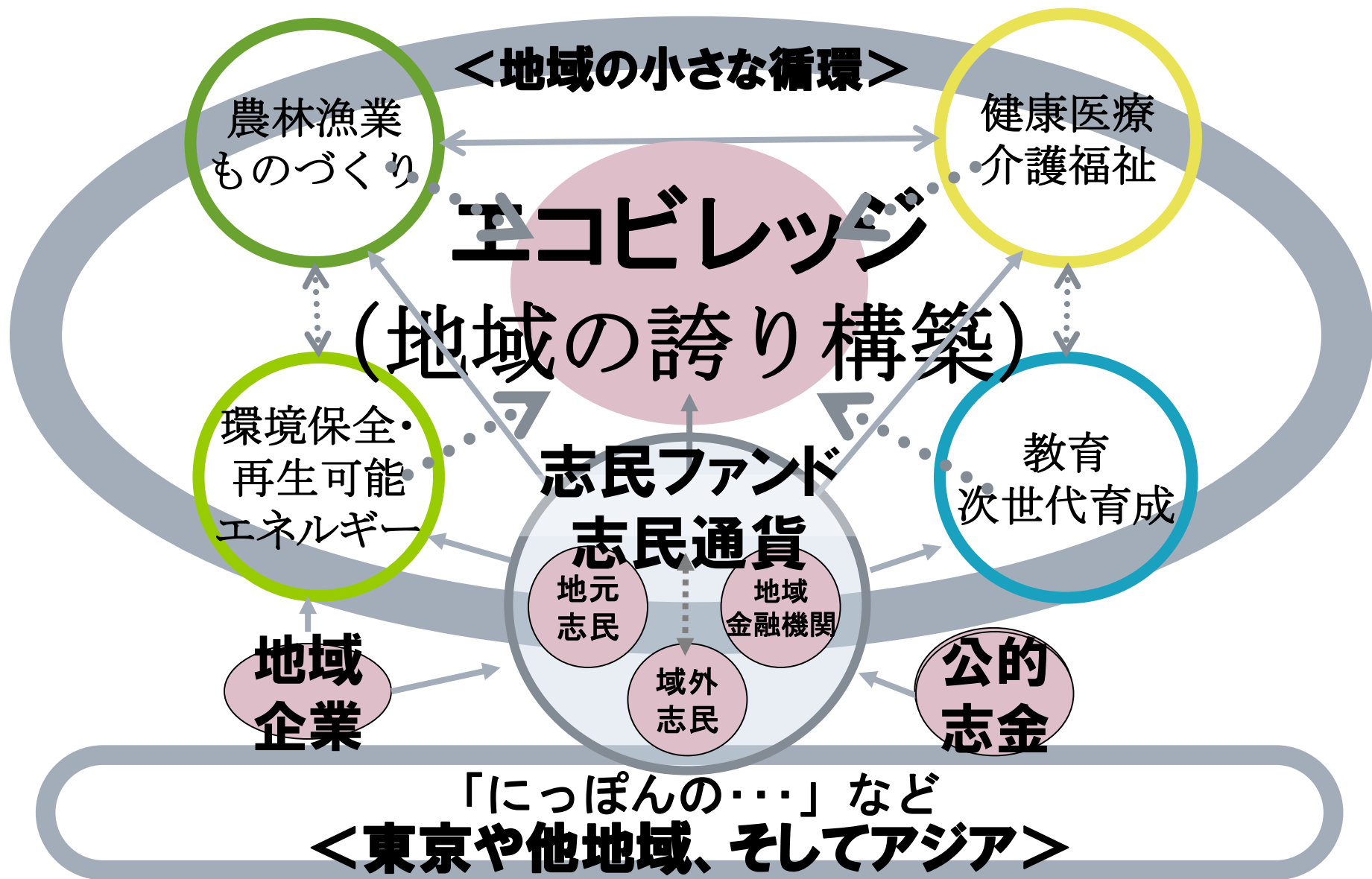
- ・再生可能エネルギー、農林漁業、介護福祉、教育
のいのちの4分野による小さな循環モデルの具体化
- ・桜が池周辺のエコビレッジ構想を漸次具体化
- ・木質バイオマスによるエネルギー自給に着手
- ・地方創生ファンドスキームの構築へ
- ・都市との農業交流やクリエイター交流の場の創出
- ・地域内包括医療ケアの強力な推進

⇒地域内分権・新しい協働による

「南砺型持続可能社会」の創出へ

エコビレッジ(「いのちの紡ぎ直し」)の実現

＜いのちの4分野連携/新たな金融の仕組み/他地域間連携＞





桜ヶ池モデル

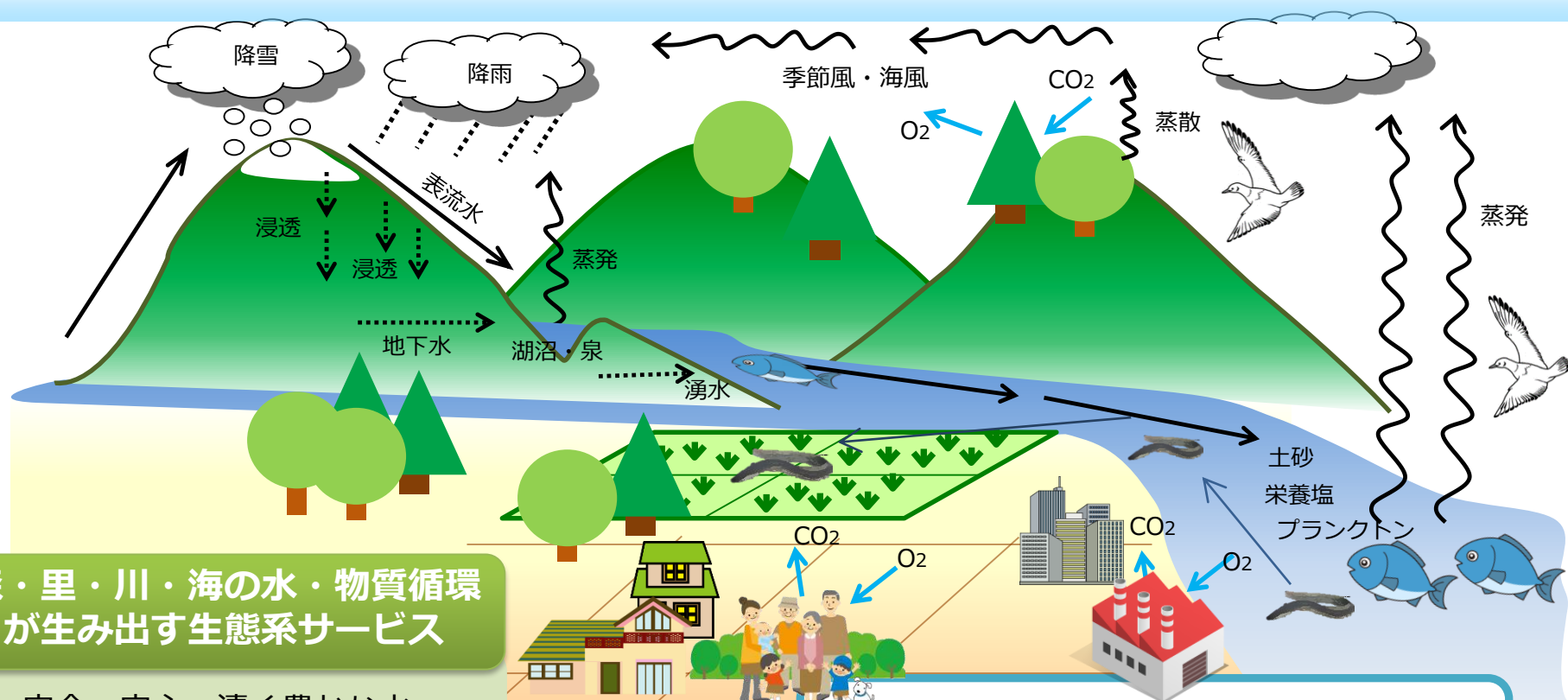


鎮守の森、鎮守の海を守り、 森・里・川・海連環を取り戻す 国民的運動の展開へ

— 第7回ローカルサミットIN高野山(2014)で提唱し、
環境省も新たなアクションを始動！ —

「生きとし生けるものとの暮らしを取り戻すための国民運動を展開していかないと、我々に残されている時間的な猶予は少ないのではないか。その意味では、鎮守の森、鎮守の海を守るべく、森里川海連環の観点から新たなつながりを再構築すべく幅広く志金を集め、それを活かす方途を探れないものでしょうか。その具体的な方法論も含め幅広く議論すべきタイミングではないでしょうか。また、未来を創る子供たちに、豊かな海辺や森の自然に触れ、五感を研ぎ澄ませることの出来る時間をもっと持てるような仕組みが出来ないものでしょうか。」(2014.11.03 ローカルサミット事務総長の総括より)

森・里・川・海の水・物質循環が生み出す恵み



森・里・川・海の水・物質循環が生み出す生態系サービス

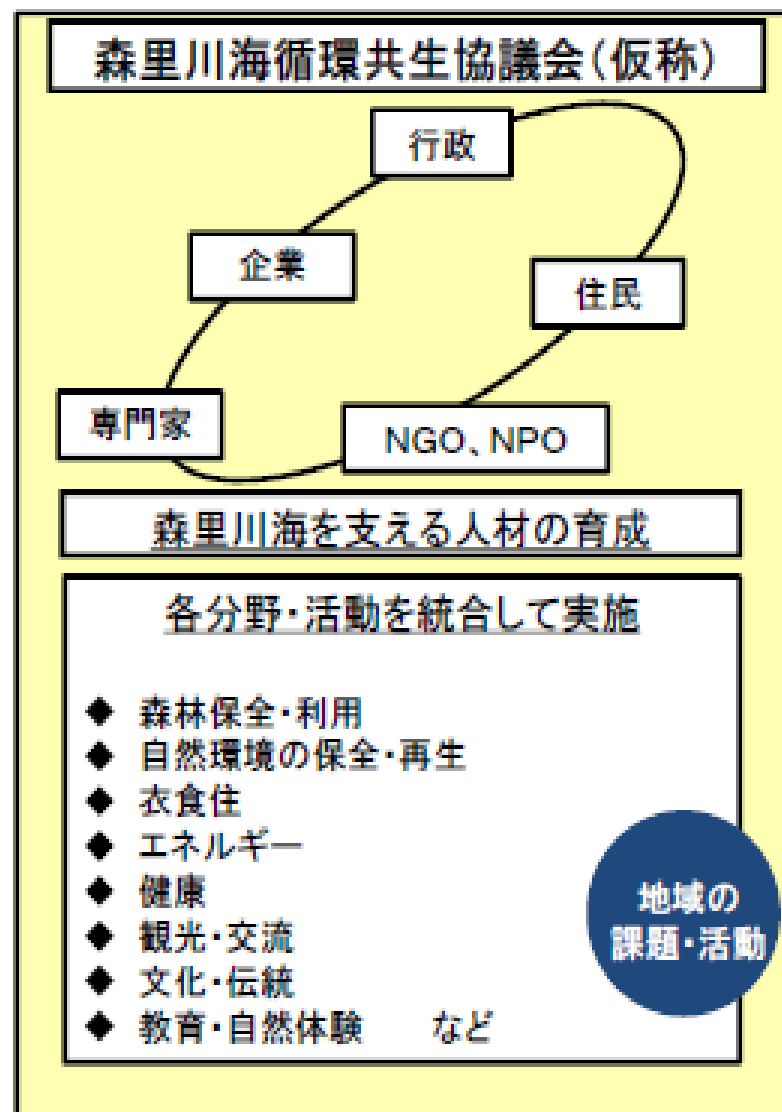
安全・安心・清く豊かな水
 清浄な空気・土壌の保全
 安全で美味しい食糧
 バイオマス
 地域特産品
 地域の自然に根ざした文化
 災害防止
 レクリエーション

都市の人々は、農山漁村が生み出すこれらの恵みを受けてくらしている。



森里川海循環共生協議会と地域創造ファンドの創設

- 「森里川海をつなぎ、支えていくために(提言)」(平成28年9月)において、森里川海の課題や取組を自分のものとして捉え、広げていくための仕組みとして以下のスキームが提案されている。

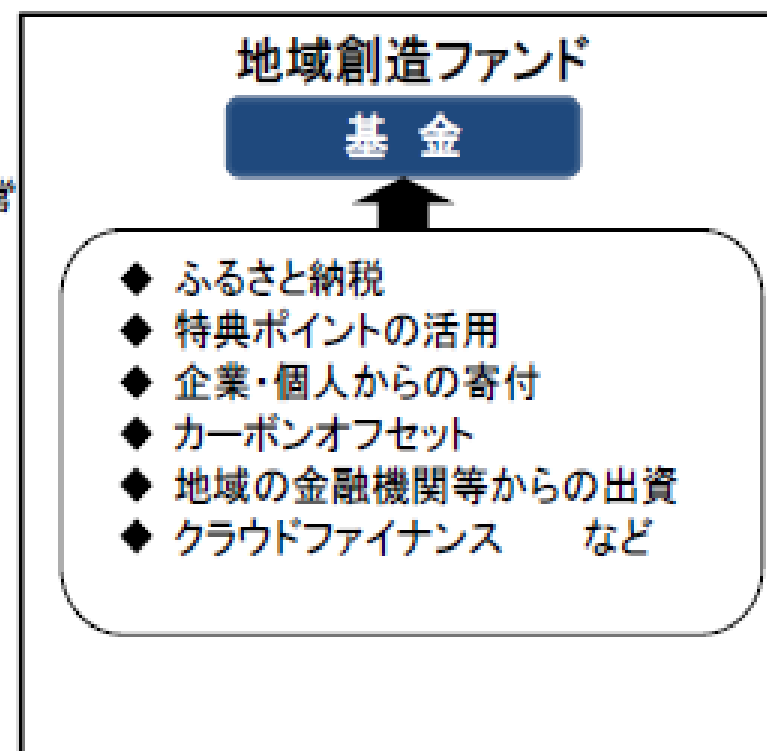


森里川海をつなぎ、保全しつつ、衣食住やエネルギーなどのくらしの基盤を見直し、自然の恵みを最大限に引き出すライフスタイルの転換を図る。

これにより、低炭素・循環資源・自然共生が同時に達成される真に持続可能な循環共生型の地域社会を創造する。

継続的な運営
が可能に

資金



地方創生への展望

ローカルからの 自立分散型社会創造へ

— 取戻すべき4つの価値軸 —

1. いきとしいけるもの（自然観）
2. 100年後に何を残すか（時間観）
3. 未来を創るのは子ども達（世代観）
4. お金に換算されない価値（貨幣観）

地域の「確かな未来」創生への 4つの連立方程式

$$\begin{aligned} &\text{地域資源の再創造} = \text{「森里川海プロジェクト」} \\ &\quad + \\ &\text{地域内資源の循環} = \text{「エコビレッジ構想」} \\ &\quad + \\ &\text{地域人財の育成とシビックプライドの醸成} = \\ &\quad \text{「子ども達、若者が主役」} \\ &\quad + \\ &\text{新たな公共と温かいお金} = \\ &\quad \text{「住民主体による新たなまつりごと」} \end{aligned}$$



第10回ローカルサミットIN東近江

ローカルファイナンスが拓く確かな未来

～時間軸と空間軸から100年後のローカルを構想する～

2017.12.1|金|～12.3|日|



ローカルサミット in 東近江

～ローカルファイナンスが拓く確かな未来～

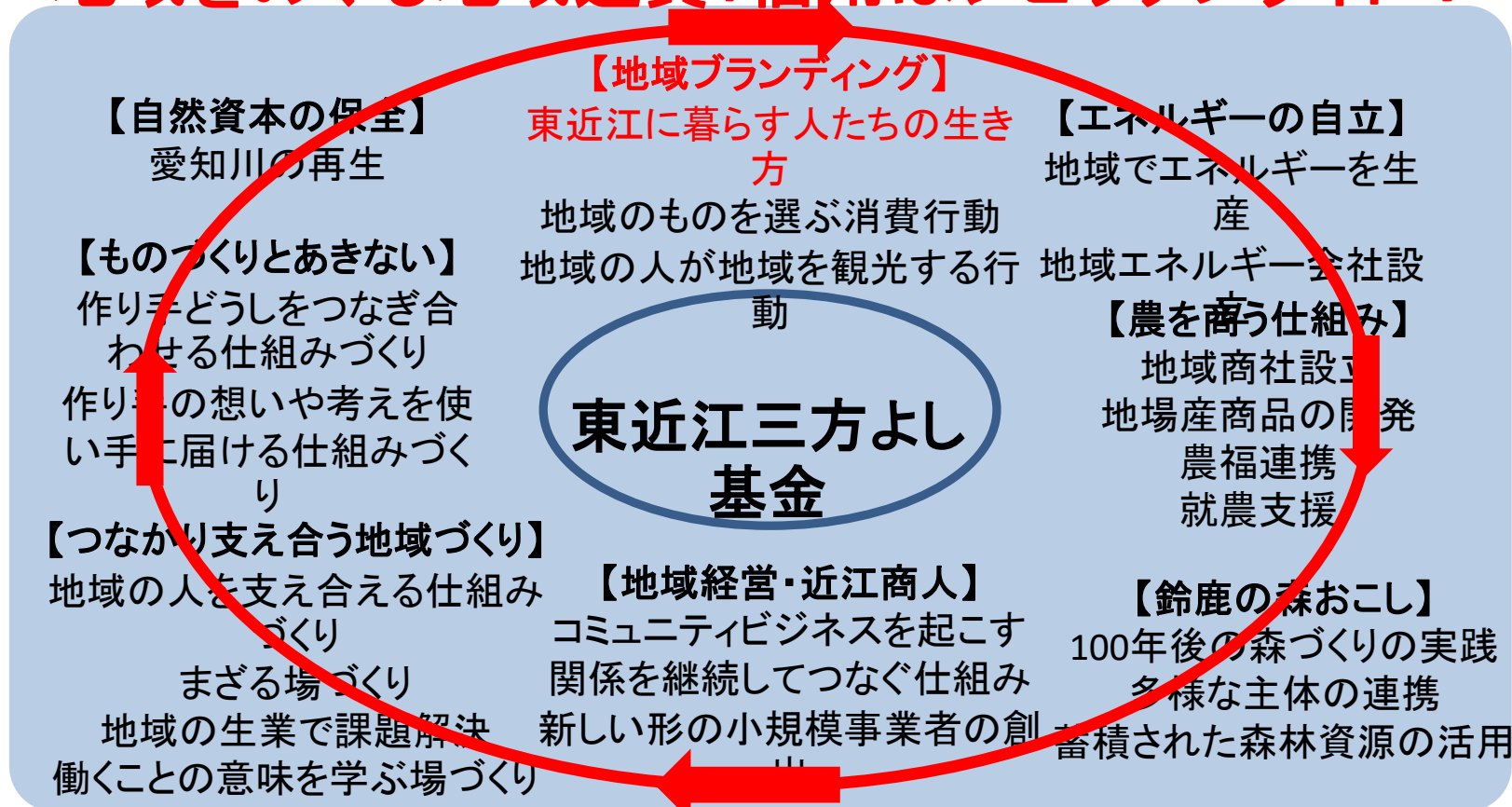


ローカルサミット in 東近江

～ローカルファイナンスが拓く確かな未来～

第10回ローカルサミットIN東近江宣言

地域をめぐる地域通貨：信用はシビックプライド！



～地域の主役は次世代～

第10回ローカルサミットin東近江を通じ、地域の歴史・文化、人と自然が調和して暮らしていた伝統的な普遍的価値観の重要性に気づいた私たちは、それを新たな形で実現しうる次世代に確実に伝えなければならない。

東近江での「新たなまつりごと」の形

東近江市環境審議会

【東近江市環境円卓会議】(環境基本計画に位置付け)

市民・事業者・行政・専門家等が対等の立場で参加し、共通のテーブルで将来像の実現に向けた計画の進捗管理・課題抽出・政策提言を行う。運営委員会を設置し活動する。

- ・指標のチェック(CO₂, 円, つながり時間の視点を含む)
- ・将来像と取組の進捗状況をわかりやすく伝える
- ・課題抽出・課題共有の場作り

例) エコツーリズム推進協議会
・地域資源の掘り起こし
・エコツーリズムの提案・情報発信
・エコツーリズムの試行

例) 森おこしプロジェクト
・イヌワシの棲む森づくりの実現
・森林資源を活用したコミュニティビジネスの支援

【一般財団法人東近江三方よし基金】H29年6月12日設立

地域金融機関、事業者、NPO、行政等が参加し、環境基本計画の実現に向けた活動の様々な資金調達の支援と、コレクティブインパクトによる課題解決の仕組みづくりをサポートする。

- ・評議員(8名)、理事(18名)、監事(2名)で組織を構成
- ・公益法人化を目指して申請中
- ・支援する取り組みの種類
 - 暮らしを支える○地域の食と農業を支える○森里川湖のつながり保全・活用○子ども・若者を支える○生業・起業・ものづくりを支える
 - 再生可能エネルギーを支える○基金の運営を支える

地域金融機関

龍谷大学LORC

地域循環共生圏モデル事業
にて事業実施

事務局

【NPO法人まちづくりネット東近江】(既存の中間支援組織)

- ・情報収集・提供に関わる事業
- ・相談・コンサルティングに関わる事業
- ・交流促進に関わる事業
- ・マネジメントに関わる事業
- ・人材育成に関わる事業
- ・協働推進のためのコーディネートに関わる事業
- ・コミュニティビジネス等の育成・支援に関わる事業
- ・市民活動・NPO、地域コミュニティ、参加と協働等に関わる調査研究事業

非資金的支援

東近江市
若者

設立経過（H22～）

H22 市研究会報告 資金調達分科会にて、コミュニティファンドの必要性提案

「2030年東近江市の将来像」環境円卓会議にて制作

H26 市民協働推進計画にて、コミュニティファンド明文化
地域経済循環分析実施

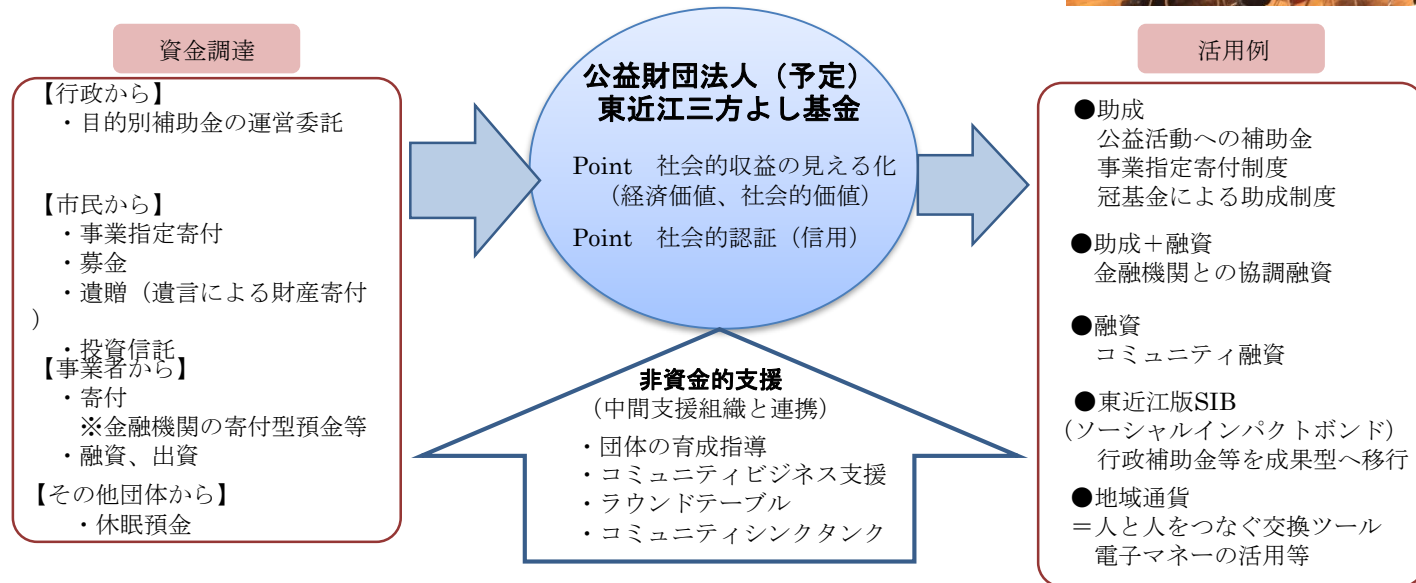
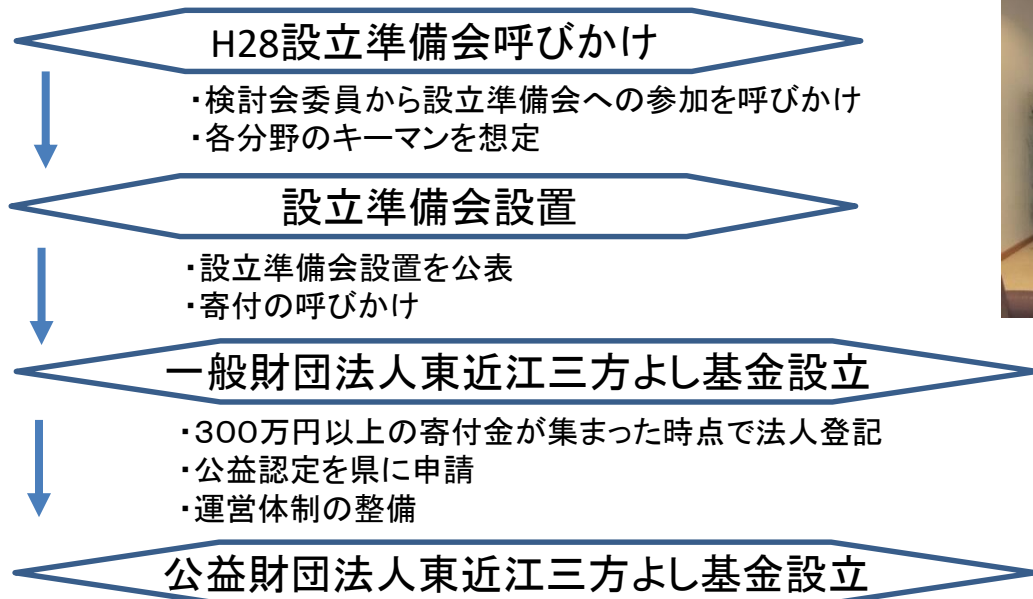
H27 コミュニティファンド検討会開催（全5回）

H28 東近江三方よし基金設立準備会（全6回＋研究会4回）
第2次環境基本計画検討

H29 6月 一般財団法人東近江三方よし基金設立

H30 2月 公益認定申請（3月審査開始）

1. 基金設立に向けて



基金を活用して地域に新しい暮らしを創る！ ※写真はイメージです！

<事例1：地域材を活用した商品開発>

地域の木材を活用して、地域の森とつながるおもちゃを製作する事業を始める。木組みの技術を生かした木のおもちゃであり、森林資源の有効活用、中山間地域の仕事の創出を目指した。今後は加工器具の充実を図り、事業を拡大したい。

実施主体：株式会社を設立予定



<事例2：空き家を活用して地域活性化>

御代参街道沿いの古民家（敷地一体）をリニューアルし、ものづくりの拠点、歴史を学ぶ拠点、アートの拠点、生活支援の拠点、子育ての拠点、等地域活性化の拠点としたい。

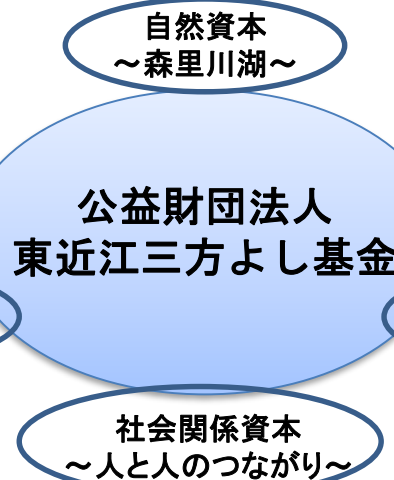
実施主体：一般社団法人を設立予定



<事例3：地域貢献型発電事業>

市内の遊休地を活用し、太陽光発電事業を実施する。必要経費を差し引いた売電益は、コミュニティファンドに寄付する。発電された電気は、自治体PPSなどに売電することで地域の再生可能エネルギー普及にも貢献する。

実施主体：一般社団法人または株式会社



<事例4：森を生かした次世代育成と生物多様性保全>

市が整備した河辺林をボランティアで整備し、4歳から小学3年までを対象に子供たちの心に種をまく体験活動を提供している。今後、対象年齢、対象地域を増やすにはスタッフの増員・人材育成が必要。イベントは常にキャンセル待ち状態である。

実施主体：NPO法人



<事例5：空き店舗を地域活性化拠点に>

コミュニティビジネスの拠点となる空き店舗を改修し、コミュニティカフェを開店。地域のマルシェや観光プランの試行等を企画し運営するまちづくり会社の拠点とする。

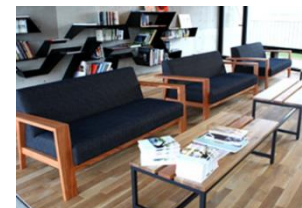
実施主体：株式会社等



<事例6：広葉樹&針葉樹を活用したブランド家具生産>

地域にある森林資源の付加価値向上のため、ブランド家具として生産・販売する。森林整備と雇用の創出に貢献するため、伐採から木材加工・販売までのサプライチェーンをつなぐ。

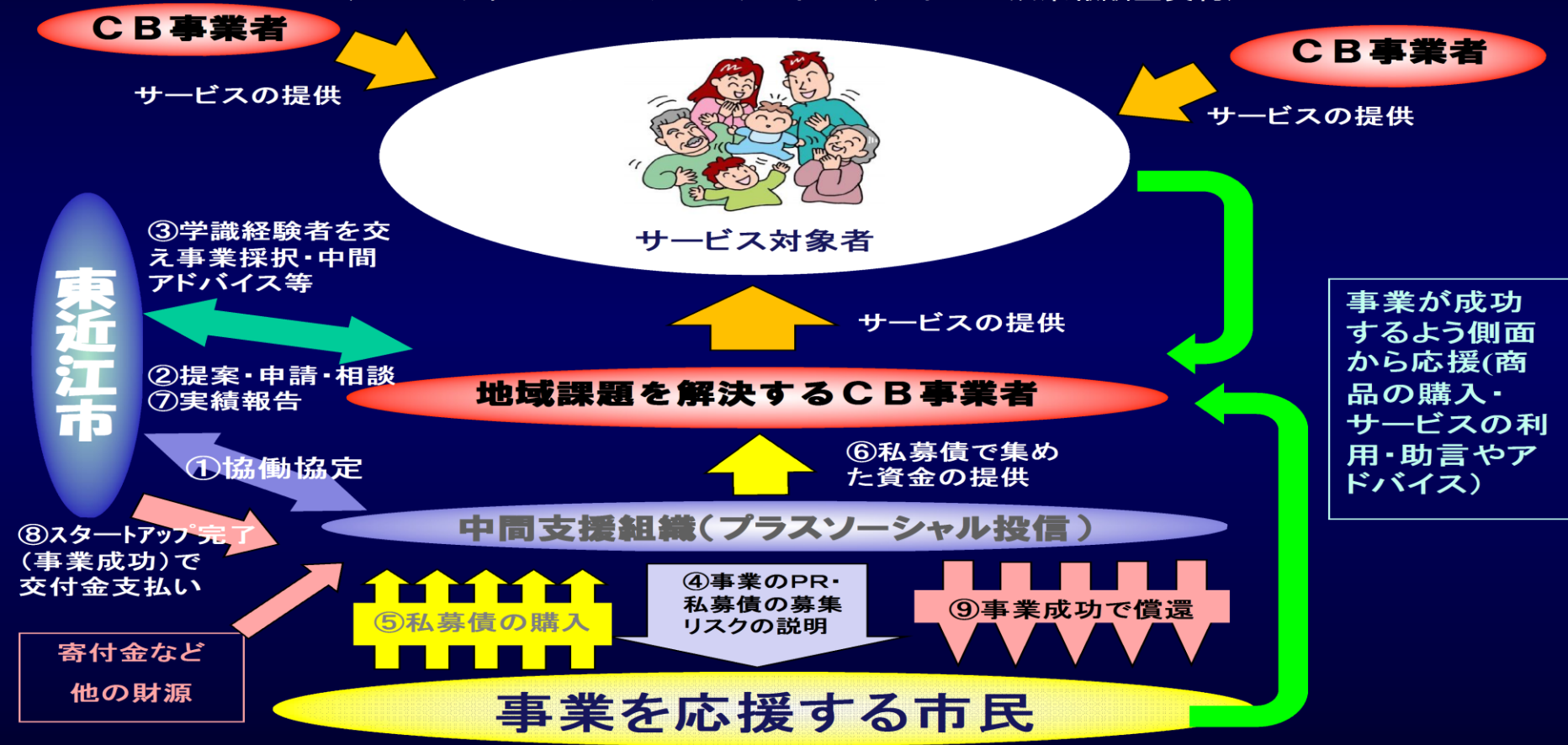
実施主体：株式会社、一般社団等



東近江市の仕組み（H28）

東近江版CB×SIBの仕組み

（コミュニティビジネス×ソーシャルインパクトボンド：成果報酬型契約）



中間支援組織と協定し、東近江コミュニティビジネス応援債の発行



- ・一口2万円、1事業者50万円まで、私募債を発行(募集期間2週間)
- ・事業者も応援してくれる市民へ声かけ
- ・年度末の成果が達成できれば満額償還(原資は市が交付する)
- ・私募債を購入した市民は、事業が成功するよう、成果がでるよう側面から応援→当事者化



コミュニティビジネススタートアップ支援事業



&



東近江三方よし基金

&



PLUS SOCIAL



中間的就労支援事業事業



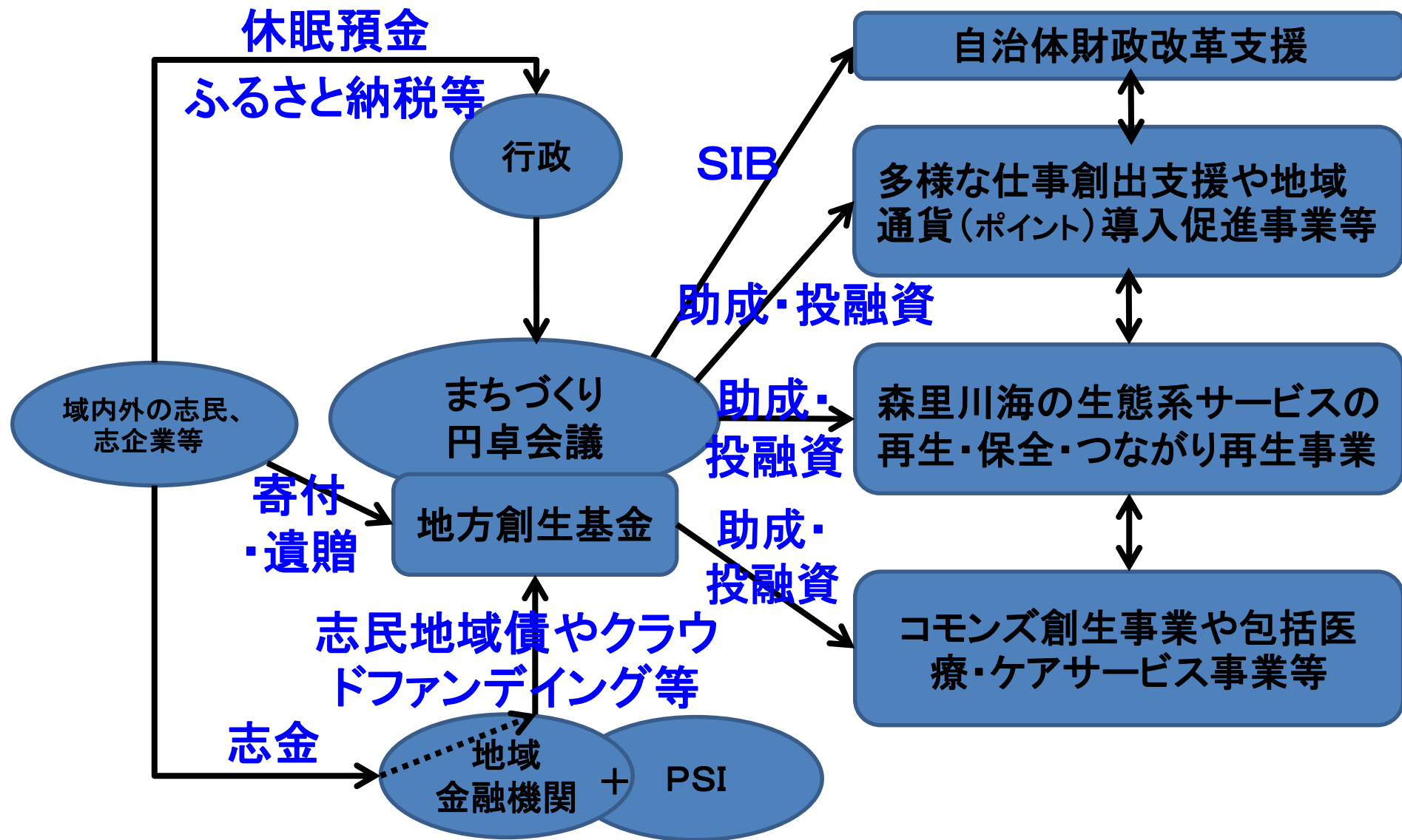
ローカルファイナンス研究会の立上げ (2016. 10)

- ・地域の資金循環のあり方を持続可能な地域づくりをベースに議論する
- ・地域の金融機関、特に信用金庫の力を活用したローカルファイナンスづくり
- ・具体的なスキームづくりと地域への実装化（東近江・南砺・小田原）
- ・地域自治で民間資金を活用するモデルの開発：社会的投資の地域実装
- ・休眠預金を真に活用するローカスキームの開発と実装
- ・遺贈の地産地消、持続可能な地域づくりにつながるスキーム開発と実装
- ・ローカル・ファイナンスの普及・啓発（空気づくり）

我々が描くビジョン

- 持続可能でしなやかな地域社会を形成するために、日本における社会的投資の形成・推進に取り組む。
- 社会的インパクトを創出する多様な市民事業をローカルファイナンスの観点から後押し、地域課題の解決及び持続可能な地域づくりに寄与する。
- 地域経済循環のハブとなり、地域の社会関係資本、人的資本、人工資本そして自然資本をつなぐ域内投資を促す。
- 一人ひとりが個性や創造性を発揮し、事業を起こしやすい環境をつくることによって、働く場所が増え、地域に人が根付き、都会とは違った独自の豊かなライフスタイルを享受できる地域社会を応援する

地域ファンド(「ふるさと基金」)設立の意義



全国各地で「ふるさと基金」創設に向け呼びかけ！

●「まちづくり円卓会議（仮）」を継続的に開こう！

- ・10～20年後（自分達）、50年後（次世代）を見据えて
- ・子ども達（小中高大）、若者、女性が主役！行政は脇役
- ・どんな暮らしを創りたいか？そのために必要なことを、アイデアを持ち寄り、話し合い、アクションプログラムを考えよう

●「ふるさと基金」設立準備委員会を立ち上げよう！

- ・市民、有識者、地元金融機関、行政、応援団等20名くらいのメンバーを集めて、勉強会から動き出しましょう！
- ・どんなお金をどのように集め、どのように有効に使って、未来資本を創っていけるか、自分事として検討していこう
- ・1年後には設立に向けたロードマップを明確に出来るよう動こう！

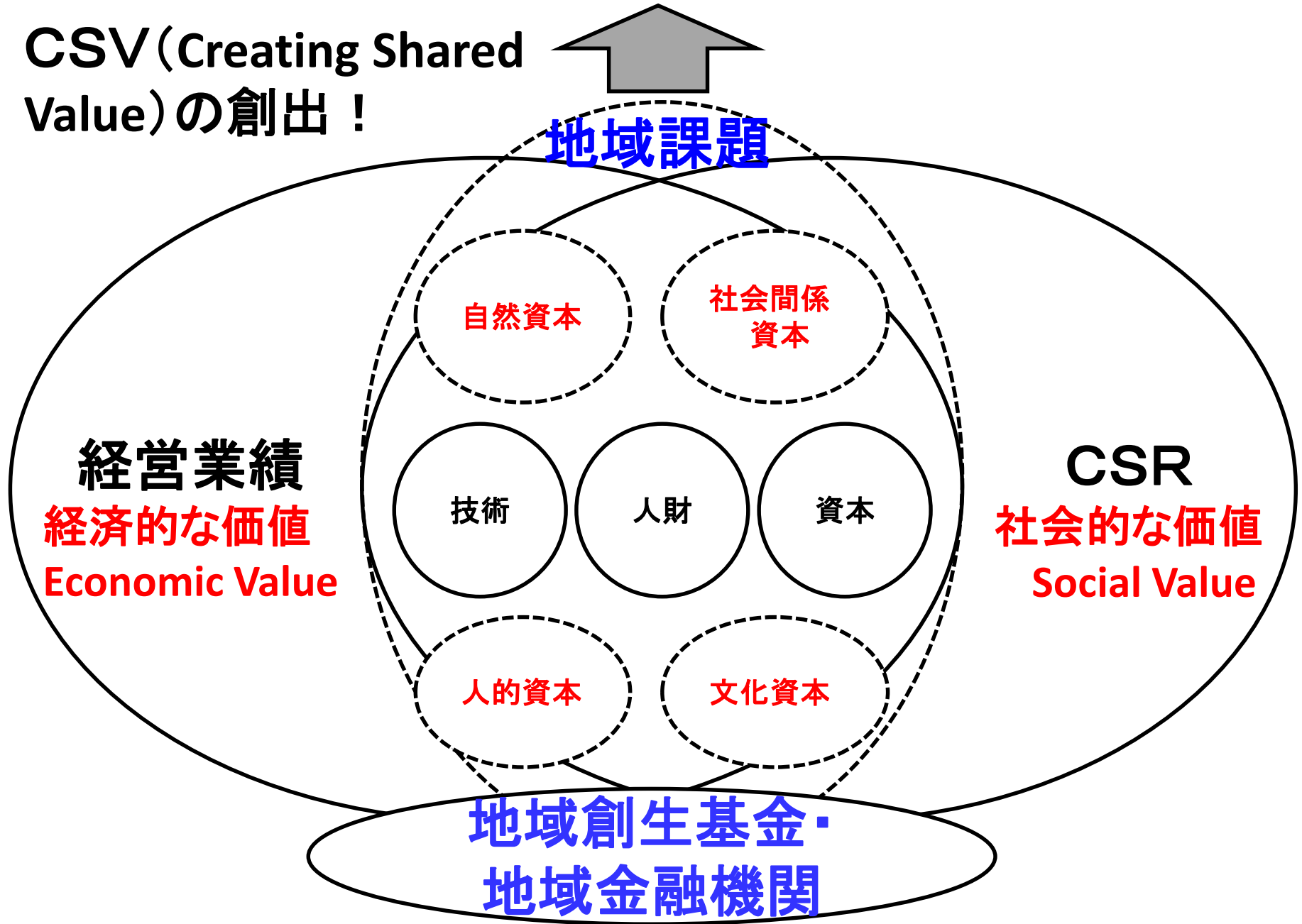
⇒南相馬、南砺、小田原、倉敷、沖永良部、南伊豆、西条、高崎
他で！

今なぜ、地域ファンド(「ふるさと基金」)を 立ち上げるのか？

1. 各地で未来を創る事業構想が多く具体化している！
一何を、誰が、どう進め、どう持続させていくかを検討する時、
「**自足のお金**」が必要！ **もはや、補助金に頼るのは無理！**
2. 目に見える形で社会的な投資を行いたい志民のニーズが明確に表出し始めている！（寄付、遺贈等）
一単なる儲けの投資ではなく、目に見える社会的成果を実感・
掴める先へ **お金を自分事として振向けたい**という意思を持つ多くの
地域内外の人たちがいる！
3. 基金組成・運営のノウハウや実践例があり、自治体
や地域金融機関も関わりたいとの意向を表明！
一 **東近江モデルの実例とPSIによる新たな社会技術の実践**を
ベースに、設立準備を迅速に進めていくことが可能！

新たな地業（地域課題解決と価値創造）の創出

CSV (Creating Shared Value) の創出！





未来を創る次世代に南砺の未来資本を！

地域ファンド
「(仮称)南砺幸せ未来基金」の設立を！
(2016.11～勉強会をスタート)

南砺のまちづくり

「結い・土徳」大黒柱

2015. 7. 22

私たちは次代に何を残すのか？

次期総合計画

まちづくり基本条例（情報共有・市民主体・協働）

地方創生

都会化しないまち

市民がどんな街を望むのか？

山間過疎地域振興条例

中小企業・小規模事業者振興基本条例

総力戦で考える

「産官学金労言」連携

交流観光まちづくり
移住・定住促進事業
雇用創出 空き家対策
起業家支援
農業と地産地消

伝統工芸などモノづくり
三世代同居促進事業
有るモノ磨き ICT
地域内経済循環

ラストチャンス

地方に人材を集める

プランナーよりプレイヤー

屋根

地域の個性を核に自立へ（石破大臣）

地方は自ら稼ぐ力を身につけ、

中央に頼らず自立していく。

儲かる仕組み

事業

予算

施策

市民幸福度・満足度の向上

従来の取り組みの延長線上で
はない次元の異なる大胆な政策

地方創生事業（人口ビジョン・総合戦略）

梁

ヒト
自然
伝統
歴史
文化
食

芸術文化
創造都市

地域包括医療
ケア・健康

地方創生キーワード

地域で稼ぐ

クリエイティブ
イテジ

健康・教育
子育て

強みをとことん、課題をチャンスに変える行動力
ヒトづくり
量から質へのギャチェンジ
土地と文化を守る
場所の持つ価値を高める懐かしい未来の創造
ストックの再生 言い訳はしない

地域デザイン

地域経営

柱

エコビレッジ構想（新しいライフスタイルの提案）

基礎

安全・安心・市民主体の協働のまちづくり

健全な市政運営・財政運営（公共施設の再編）

基盤

南砺エコビレッジ事業の展開(2012～)

南砺市エコビレッジ構想とエコビレッジプロジェクトの概要

【基本理念】 小さな循環による地域デザイン

自然との共生による地域資源を活かした持続可能な循環型社会の構築

【基本方針】 ①再生可能エネルギーの創出 ②農林業の再生 ③健康医療福祉介護の連携 ④次世代の人材育成 ⑤ソーシャルビジネスの推進 ⑥新しい暮らし方の提案

エコビレッジ住宅ゾーン

南砺産材による
自然共生住宅と
南砺の風土に
あった住宅ゾ
ン・新しい暮らし方の提案



薪・ペレットの供給

木質エネルギー利活用

南砺の8割
を占める
木質資源
のエネルギー
システムの構築



エコビレッジ部活動

市内高校生・中学生
の活動への支援
美化活動、
共学農園
福祉体験
地域文化



グリーンカーテン



再生可能エネルギーの創出
太陽光発電設備、木質ボイラー整備
クアガーデン・ヨッテカーレ・
白濁の森・キャンプ場・コテージ

エコビレッジ桜ヶ池モデル地区

桜ヶ池エコビレッジプロジェクト委員会との連携



エコビレッジ法人
つなぐ南砺の設立



クリエイタープラザ
アニメ、映像、音楽などのコン
テンツ産業の集積



キッチンカー営業、
桜ヶ池美化活動・植樹
エコビレッジ推進事業

森里川海の人的
ネットワークの活用

市内全域への波及
南砺エコビレッジの実現



合掌家屋「かず良」再生



350年の歴史を誇る合掌家屋
の再生と麻や蕎麦などの伝統
産業の復活



合掌造り「かず良」
カフェ、ゲストハウス

蕎麦・味噌・麻（麻布）
包括連携協定による
協働プロジェクト

金沢大学

一般社団法人
リバースプロジェクト
との連携

講演会、研修会、
説明会、出前講座
など300回を超える
啓発活動

エコビレッジ構想の普及啓発



「もったいない」と「おかげさま」でつなぐ
南砺エコビレッジサミットの開催

確かな未来は懐かしい過去にある

南砺エコビレッジの新しい暮らし方の
提案による次世代につなぐ持続可能な
循環型社会を目指します
南砺の354自治会が地域資源を活用し
自立できる地域づくりを進めます



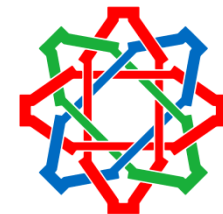
ECOTO

エコビレッジ
クラブの運営、
ホームページ、
ロゴマーク、
ソーシャルシネ
マダイアログ

再生可能エネルギー推進事業

太陽光発電設備整備（ヨッテカーレ、桜ヶ池クアガーデン、南砺中央病院）

木質ペレットボイラー整備（桜ヶ池クアガーデン、福光プールほか 3 施設）



ECOTO
南砺市エコビレッジ構想



ヨッテカーレ

二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として整備。
年間約47 t のCO2削減を見込む。
蓄電池も装備し、災害時における電力が確保され、避難所として自立した施設運営が可能。

二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として整備。
年間約2,000 t のCO2削減を見込む。
計画中の木質ペレット燃料工場が稼動すると、市内でのエネルギー自給が実現する。



桜ヶ池クアガーデン

再生可能エネルギー推進事業

小水力発電事業

(河川水、農業用水、水道用水)

【福野】福野調整槽小水力発電所

事業者：砺波広域圏事務組合

最大出力：16 kW

発電開始：平成29年3月

【福光】山田新田用水発電所

事業者：小矢部川上流用水土地改良区

最大出力：520 kW

発電開始：平成25年3月

【福光】臼中発電所

事業者：小矢部川上流用水土地改良区

最大出力：910 kW

発電開始：平成10年12月

【上平】小瀬小水力発電所

事業者：(株)グリーンパワー小瀬

最大出力：160 kW

発電開始：平成28年10月

【井波】高瀬発電所

事業者：庄川沿岸用水土地改良区連合

最大出力：199 kW

発電開始：平成27年1月

【平】湯谷川小水力発電所（仮）

事業者：(株)新日本コンサルタント

最大出力：800 kW

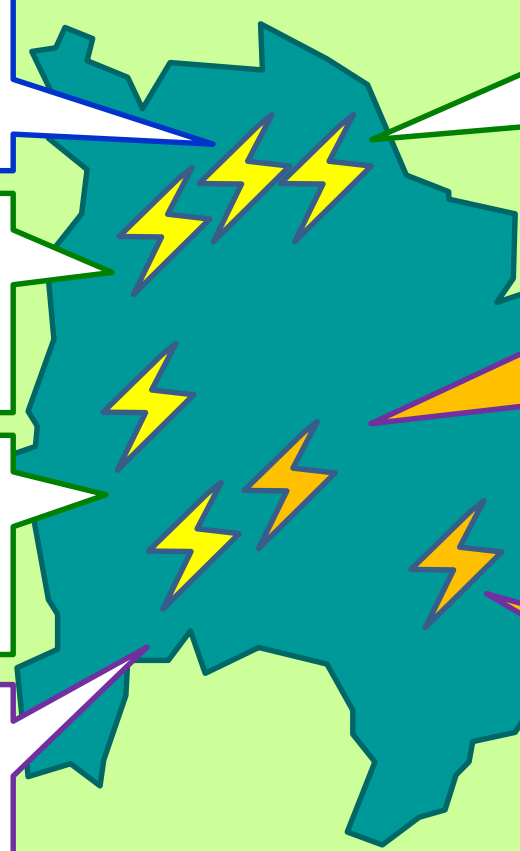
発電開始：H30年予定

【利賀】上百瀬発電所（仮）

事業者：富山県企業局

最大出力：640 kW

発電開始：H30年11月予定



再生可能エネルギー推進事業

住宅用太陽光発電設備設置補助

木質ペレットストーブ等設置補助



再生可能エネルギー設備の導入を推進し、二酸化炭素排出量の削減とエネルギーの自給を目的として実施。

- ・住宅用の発電設備
- ・出力 2 kW以上
- ・1 件 5 万円を補助

再生可能エネルギー設備の導入を推進し、二酸化炭素排出量の削減を目的として実施。木質ペレットストーブや薪ストーブ、バイオマスボイラー等が対象。

- ・費用の 2 分の 1 以内を補助
- ・上限 1 0 万円



南砺市木質バイオマスボイラーによる地域内資金循環

ECOTO
南砺市エコビレッジ構想

域外流出
33,680千円
[40%]

化石燃料からなる
エネルギー代金の
流出は
約78億円

バイオマスボイラー
導入による流出の
抑制

年間費用

84,199千円
[100%]

- ・バイオマス燃料
- ・化石燃料
- ・灰処理費

バイオマスボイラー導入による地域内の経済効果は
50,519(1回目)+30,311(2回目)+18,187(3回目)
+1,000(カーボンオフセットによる経済効果)
=100,017千円

1回目
地域内調達分
50,519千円
[60%]
・バイオマス燃料

バイオマスボイラー
の導入



カーボンオフセット
による経済効果
1,000千円

バイオマス燃料工場と取引



2回目
地域内調達分
30,311千円
[60%]
・森林資源買い取り

森林施業者と
取引

3回目
地域内調達分
18,187千円
[60%]
・地域内消費

域外流出
12,124千円
[40%]

域外流出
20,208千円
[40%]

南砺市外から
お金を投入しても

今のままでは市内
にお金が残らない



南砺市エコビレッジ構想推進モデル事業

「発酵バイオマス農業」

桜ヶ池バイオマス農業推進協議会



廃棄される木の皮を発酵させると、発酵による熱とCO₂等のガスが発生する。その熱をビニールハウス内に取り込むことにより冬期でも気温15度以上維持することができ、一年を通した温室栽培が可能となる。

発酵ガスに含まれるCO₂には成長を促進させる作用があり、短期間での収穫や収穫回数が増加するなどの効果があった。また、作物が活性化されたことにより、腐りにくく、食味の良い作物が収穫できた。



エコビレッジ人材育成事業 「エコビレッジ部活動」

南砺福野高校、南砺福光高校、南砺平高校



南砺福野高校

循環型農業研修やグリーンカーテン設置、
小水力発電学習を行い、環境保全について学ぶ。
中学生や地域住民との農作業交流も行い、
暮らしの中にある農業を見直しも行っている。

南砺市特産のあんぽ柿や立野原いちごとマ
シュマロを合せた新作スイーツの試作を行っ
た。指導には地元菓子店が協力。
高校生自ら試作、パッケージデザインなどを
行い、福光高校ブランドとして販売。

南砺福光高校



あんぽ柿マシュマロ いちごマシュマロ

エコビレッジ P R 事業

「キッチンカー地産地消事業」

(株)つなぐ南砺



【メニュー例】

- ・ホットサンド
なんとポークと福野玉ねぎのしょうが焼
桜ヶ池小松菜と塩麴のオムレツ
- ・なんと野菜たっぷりスープ
- ・福野高校製福野産りんごジュース



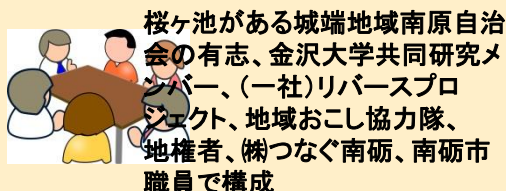
エコビレッジ構想の発信のため、旬の地域食材を使ったメニューの提供を行っている。
南砺の野菜や加工品などの P R も行う。
南砺産竹を使った「マイ箸づくりワークショップ」も同時開催し、ゴミの減量と手作りの良さについても P R している。

桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」と伝統産業の再生プロジェクトの概要

- ◇エコビレッジ構想の具現、循環型社会のシンボル、「新しいライフスタイル」を提案する情報発信拠点整備
- ◇現存の合掌造りのうち建築年が確認できる（売渡証文）最古の家屋「かず良」の改修、市指定文化財へ申請
- ◇社会環境の変化により消滅した「麻布、養蚕、木綿織物」など地域古来の伝統産業・文化の復活
- ◇東京一極集中の是正に向けた移住、定住者の地域活動の受け皿、既存住民との交流・コミュニティ形成の場

桜ヶ池合掌造り家屋「かず良」と伝統産業の再生プロジェクト

かず良を考える会



桜ヶ池がある城端地域南原自治会の有志、金沢大学共同研究メンバー、（一社）リバースプロジェクト、地域おこし協力隊、地権者、（株）つなぐ南砺、南砺市職員で構成

かず良の利用計画、運営、維持・管理などについて検討を行う

- ①かず良をどのような目的で使用するか
- ②外観、内装などをどのようにするか
- ③維持・管理、運営体制の検討
- ④改修後の積極的な関与

地域資源・歴史・文化の伝達

地元住民の合意形成

建築年が確認できる市内最古の合掌造り家屋「かず良」



学生の視点

学術的な助言

トタン屋根の取外し
茅葺替えに必要な
持続的な取組み支援

桜ヶ池周辺



都市住民の観点

クリエイターによるプロダクトアウト

一般社団法人リバースプロジェクト

- 基本理念「人類が地球に生き残るために」
- リバースビレッジ(循環型地域社会)の開拓
- 半農半Xによるクリエイターの二足の草鞋

- ①都市住人の地方への移住
- ②地方での関係資本の構築
- ③農業、及び林業人材育成



国立大学法人金沢大学

- 大学・行政の協働による地域活性化
- 地域課題の解決に大学の知見の獲得
- 地域の感性を備えた人材を育て社会を繋ぐ「地(知)」の拠点づくり

- ①「かず良」の南砺市指定文化財申請に向けた修繕、改修調査への助言
- ②桜ヶ池周辺住民および利害関係者等と「かず良」を結び、市民にとって最も有益な利用方策を探る
- ③学生の参加により地域活性、双方の学びの場を醸成



移住・定住・既住者の交流、コミュニティ形成の場

コワーキングスペース／カフェ／airbnbゲストハウス／サテライトオフィス／イベントの企画・開催

新しいライフスタイルの提案

伝統産業・文化の復活



養蚕



木綿織物

麻布



エネルギー確保



農林業人材育成
半農／半林半X



自家菜園／軽トラ市



【官民連携事業】エコビレッジ住宅ゾーンプロジェクトの概要



- ◇エコ住宅モデルとエコ住宅ゾーンの基本計画策定、事業化を官民連携で推進する
- ◇地域産材、地元業者による設計施工、再生可能エネルギーシステムの導入による循環型社会の実現

- ① エコ住宅モデルによるエコ住宅ゾーンを整備し、自立を目指した新しい暮らし方を提案し新規入居を推進する
- ② エコ住宅と再生可能エネルギーを組み合わせた住宅ゾーンとして普及啓発を進める
- ③ 市内木材業者から設計施工、設備等の住宅建設におけるモデル住宅ガイドラインを策定する

南砺市エコビレッジ住宅ゾーン（南砺型住宅モデル）プロジェクト

南砺市

地域資源循環システム協会

連携調整
情報共有
共同開発
普及啓発

経済産業省地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業として南砺エコ住宅ゾーン検討委員会を主催

- ①省エネモデルハウスの提案
- ②再生可能エネルギーシステムの提案

実証実験 → 事業化

エコ住宅モデル協議会

市内の木材業者・設計士・工務店・設備業者等の住宅建設に関する事業者による検討会

エコ住宅モデルガイドラインに定められた施工を行うための技術研修、研究などを行う。

- ①エコ住宅モデルガイドラインによる施工
- ②エコ住宅モデルの普及啓発
- ③市内事業者の技術向上、情報交換

南砺市産建築用木材（主伐・搬出）

伐採・運搬

林地残材

木の駅（薪工場）

連携

エコ住宅ゾーン委員会

専門家・学識経験者による委員会

エコ住宅の審査、研究会との連携調整、ガイドラインの見直しなどを行う

- ①モデル住宅の審査、助言
- ②研究会との調整、助言

審査 助言

施工 発注

施主

（新規定住者）

桜ヶ池エコ住宅モデル

市産材の活用

太陽光発電

高気密・高断熱住宅
地元業者による施工

家庭菜園

バイオマスストーブ



ペレット

南砺市産木材

製材所・工務店

ペレット工場

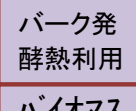
エコ住宅ゾーン

市有地(1ha)に新たに住宅ゾーンを整備

- ①エコ住宅の新築(10～20戸程)
- ②エコ住宅と農地などの住宅ゾーン整備
- ③再生可能エネルギーシステムの整備



熱供給



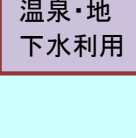
パーク発酵熱利用
バイオマスボイラー

熱供給

道路消雪



温泉・地下水利用



温浴施設



南砺市エコビレッジ構想展開イメージ

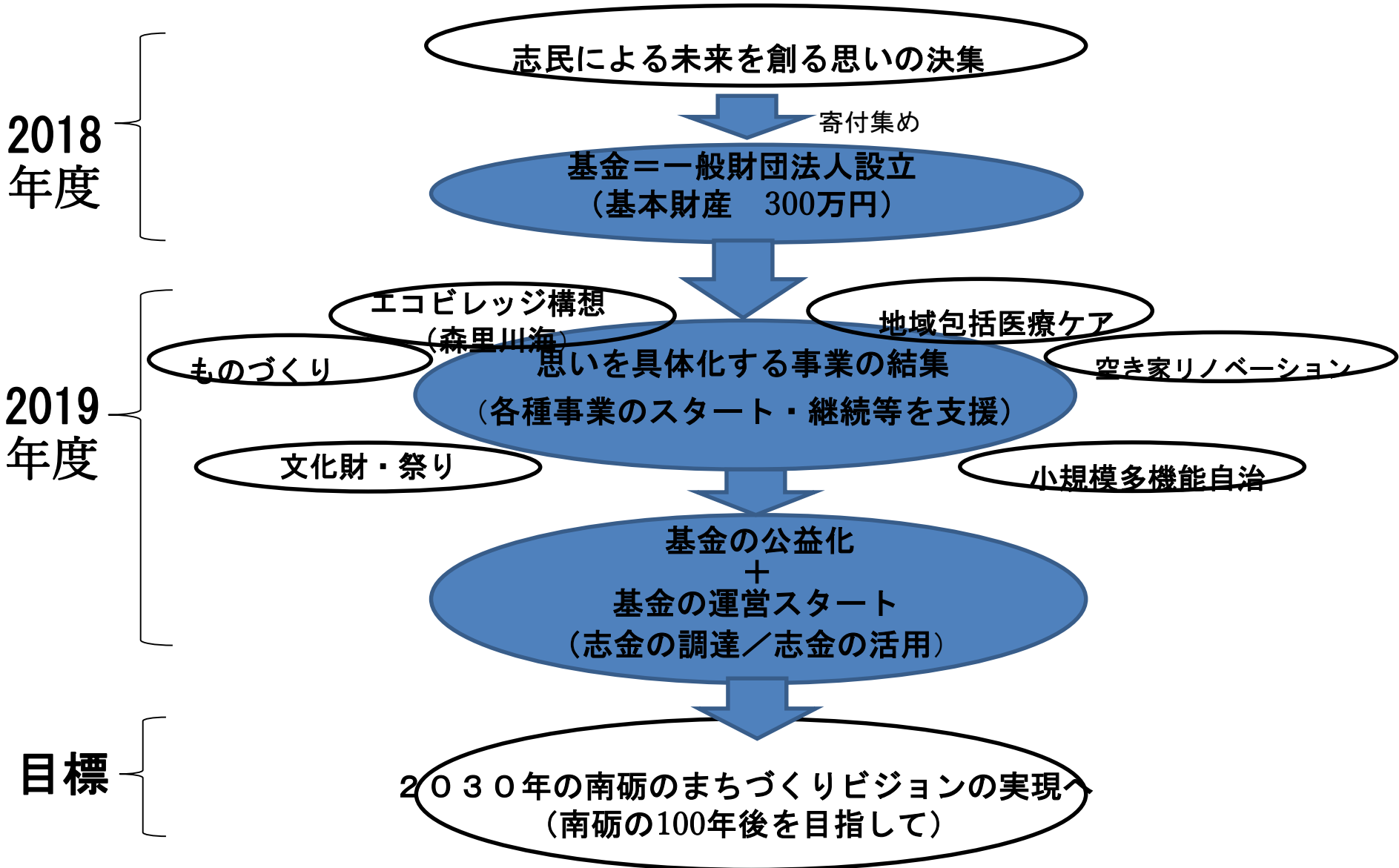


- 南砺市地域包括医療ケアシステムの構築
- 南砺市小規模多機能自治の導入
- 南砺市移住定住促進事業
- 南砺市応援市民制度導入 等

なんと地域づくりマップ 全体図



「南砺幸せ未来基金（仮称）」設立に向けて



ローカルファンド研究会IN西条の目指すもの ～新たな西条のまつりごとの形～

【西条市まちづくり円卓会議(仮称)】

まちづくり市民会議の方々を中心に、市民・事業者・行政・専門家・学生等が幅広く参加し、西条市の2030年ビジョン等の将来像を描き出す作業を行い、その実現に向けた課題抽出や政策提言を積極的に行う。

ローカルファンド研究会 IN西条
(西条市まちづくりマップ！の作成等を通じて)

【一般財団法人 西条うちぬき未来基金(仮称)】

地域金融機関、志民、行政、PSIや諸団体等が連携し、西条市の将来ビジョン実現に向けた活動に必要な多様な資金調達と仕組み作りを構築し、支援を実施していく。

西条市まちづくりマップ

これは、西条市内でさまざまな活動をしておられる人やグループ、団体のうち、西条市事務局が知り得る皆さんの活動拠点をマッピングしたものです。



B 田園エリア

少し歩けば一面の田んぼが広がる開けたエリア。夏には緑色の稲がよぎ、秋には黄金色の稲穂が揺れる。自然の恵みを感じることが出来る。



A まちなかエリア

江戸時代から栄えてきたまちや、駅や幹線道路に近く、新しく整備されたまちのあるエリア。生活に必要なものが自転車や徒歩圏内ですぐ手に入る、利便性No.1の場所です。

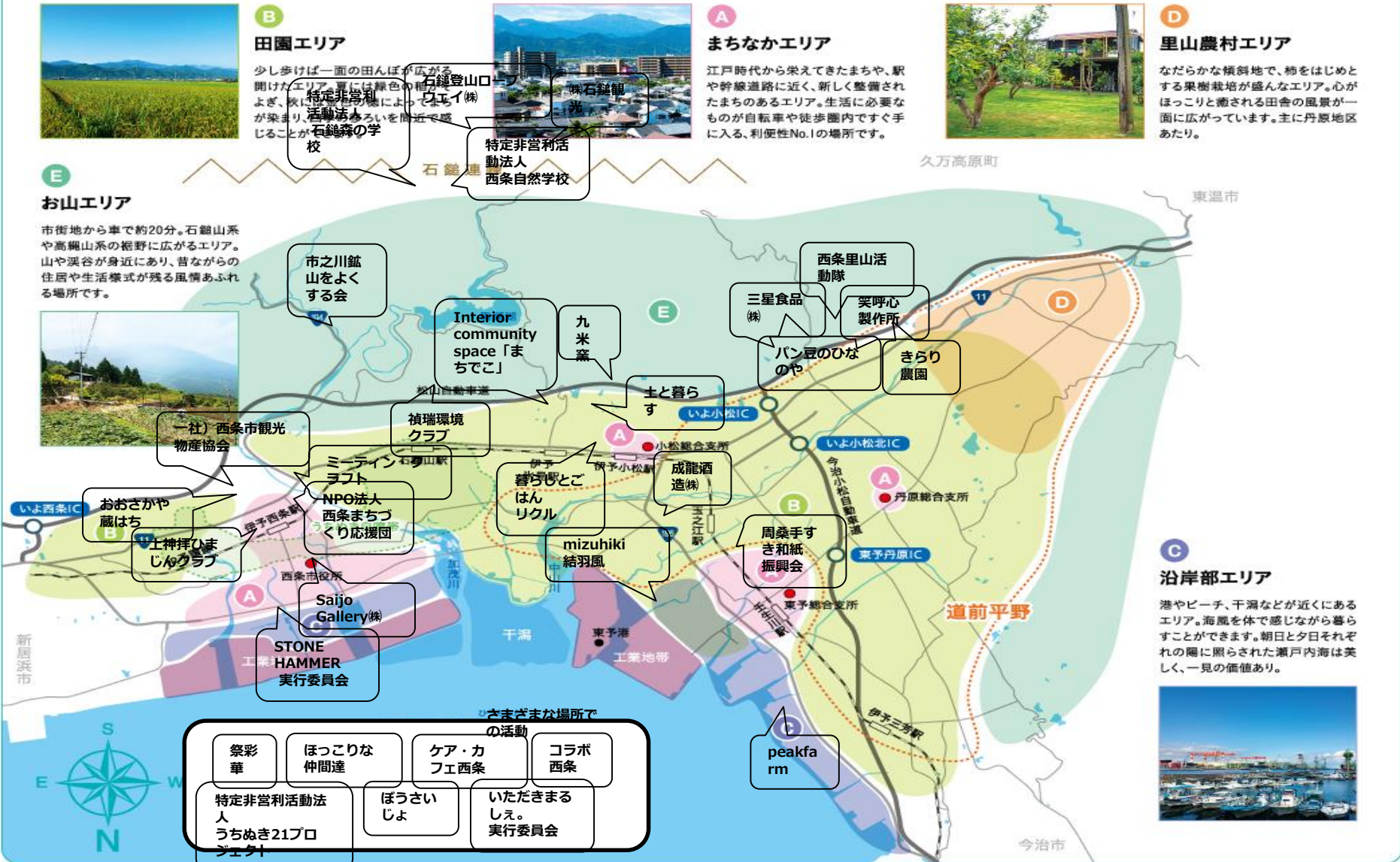


D 里山農村エリア

なだらかな傾斜地で、柿をはじめとする果樹栽培が盛んなエリア。心がほっこりと癒される田舎の風景が一面に広がっています。主に丹原地区あたり。

E お山エリア

市街地から車で約20分。石鎚山系や高縄山系の裾野に広がるエリア。山や溪谷が身近にあり、昔ながらの住居や生活様式が残る風情あふれる場所です。



C 沿岸部エリア

港やビーチ、干潟などが近くにあるエリア。海風を体で感じながら暮らすことができます。朝日と夕日それぞれの陽に照らされた瀬戸内海は美しく、一見の価値あり。



さまざまな場所での活動			
祭彩華	ほっこりな仲間達	ケア・カフェ西条	コラボ西条
特定非営利活動法人 うちめき21プロジェクト	ぼうさいじよ	いただきますいえ。実行委員会	

今後の進め方！

○各回のテーマ・時期（有識者講演＋意見交換）

第1回：ローカルファイナンス総論、SIB（5月17日）

第2回：エネルギーとまちづくり（7月29日）

第3回：介護福祉・地域包括医療ケア（9月）

第4回：ローカルベンチャー（12月）

第5回：西条高校による研究成果発表（2月）

（＊第3回以降のテーマ、開催日程等は変更の可能性あります。）

～また各会合時、「西条市地域づくりマップ」を太らせ、
繋がりを増やし、皆で可視化していきましょう！

～同時に、其々の活動をSDGsに結び付けましょう！

ローカルファンドによる新しい金融変革を！ ～「お金の流れ」を変えて未来を創る！～

